

文科省の坂口昭一郎 宇宙国際協力企画官が資料 31-1(宇宙の日)を説明した後、下記のような質疑応答があった。(今年 は釧路で開催、参加者 7,358 名で地方開催では過去最高。小・中学生作文絵画コンテストの参加者は減少、原因を調査中。「ふれあい宇宙展」は今後会場を「日本科学未来館」「JAXA 東京事務所の JAXA i」に移して 12 月 28 日まで開催。)

池上:これは、教育委員会も協力してくれるようお願いしているのですか。所謂文部省ルートで以って。

坂口:はい、教育委員会の方にも、ご協力の依頼を流して頂いてます。

青江:他、宜しゅうございますか。...あの一、この釧路でやったフェスティバルで、共催は北海道新聞釧路支社なんですか。北海道新聞じゃない訳ですか。

坂口:正式に言うと北海道新聞でして、具体的な広報活動で、具体的に協力頂いたのが釧路支社で御座います。

青江:共催というのは名義だからね、代表名義でちゃんとやって貰う。何で気になるかと言いますと、新聞メディアがちゃんとキャリーしてくれて、多くの人達に呼びかけて関心を持って貰う、と云うのは物凄く有力な道具なんですね。其の時にそういった事を一所懸命熱心にやってくれたのは、道新の一支社だけがやってくれたのか、それとも道新全体として北海道中心にやってくれたのかと云う事なんですよ。

坂口:実際の広報活動では、北海道の東側をカバーしているのが釧路支社で御座いますんで、其の支社の方が広報活動

【議事(1)】平成 19 年度「宇宙の日」記念行事の実施状況について  
をして頂きました。

青江:こう云うときは、多分、道東ムニャムニャ合わせるとでも言いましようかね、どういう風にしてこのように頼んでみてくれんかねと、言ってみれば東側だけが動いてるとかね、釧路だけが動いてるとか云うんじゃないかと、矢張り、メディアの協力を得ないと、こんなものは多分、中々あれですよ。メディアの協力を得ると随分違う。其処の処を出せ、流す様にして見たらどうかと思いますけどね。

坂口:はい、より一層努力致します。

野本:応募数が減っていると言うが、一体どういう理由で減っているのかを、ちゃんと調べて、応募数を増やす方法が調べた結果判るのであれば、良いですけども、このままドンドン減っていくと、益々寂しいなという感じになるような気がします。

坂口:ご指摘の通りだと思います。実は増えている科学館も有りまして、どうして増えたのか、どうして減ったのかを少し詳細に調べて行きたいと思っております。

青江:宜しゅうございますか。(「その他」の議題に移行する。)